

平成29年度 第1回江別市まち・ひと・しごと創生有識者会議 会議録（要点筆記）

日 時：平成29年7月4日（火） 15時00分から16時15分

場 所：江別市民会館 32号室

出席委員：澤井秀座長、中川雅志座長代理、伊藤留美子委員、龍田昌樹委員、
中橋伸郎委員、阿部宏昭委員、吉川邦俊委員、井上智委員、
本間雅彦委員（計9名）

オブザーバー：渡邊幹夫（石狩振興局地域創生部長）、中野亮二（江別商工会議所）

欠席委員：粕谷堅一郎委員、吉田岳夫委員、林武志委員（計3名）

事務局：企画政策部北川部長、企画政策部福島次長、
政策推進課金子課長、中島参事、天明屋主査、山口主事、
商工労働課根廻参事、農業振興課佐藤係長

会議概要

1 委嘱状交付

2 副市長挨拶

3 委員の紹介

4 開会

5 議事（1）

【地方創生推進交付金及び地方創生拠点整備交付金採択状況について、事務局説明】（地方創生推進交付金について）

○澤井座長

ただ今、事務局より説明のあった地方創生推進交付金の2つの事業については、今年度実施している事業であるため、委員の皆様方から、ご意見をいただき、今後の事業展開に生かしていきたいと考えている。

○中橋委員

有給インターンシップ等地域就職支援事業について、平成28年度実績の登録企業職種内訳の農作業1は個人農家か企業か教えていただきたい。

○事務局

農作業1については企業であり、個人農家ではない。

○中橋委員

これは実際に学生が企業でインターンシップを行ったのか。

○事務局

実際に企業に行ってインターンシップとして研修を行っている。

○中橋委員

農業は卒業してすぐに農家になるのは難しいが、法人への就職は十分可能性はある。いずれは独立して農家になる道も開かれるのであれば、この事業は有意義な取組である。引き続き農業関係になると思うが、協力できることがあればしていきたい。

○井上委員

有給インターンシップ等地域就職支援事業について、人手不足の中で経営者は深刻な状況である。製造業については増産体制を整えたいが人材確保が難しい。人材確保という観点からすると受入体制の強化も含め対策をしていかなければならないところである。インターンシップも含めこの事業は、企業でも興味深くニーズがあるので、さらに周知を行っていただきたい。

○澤井座長

昨年度の派遣先登録企業が 28 社で実務研修参加者数が 45 名は妥当な数値であると思う。研修の参加者を増やすためには、登録企業を増やすということが必要になってくる。インターンシップを一社で何人も受け入れることは、企業側の負担が大きいので、派遣先登録企業を増やすことに力を入れて取り組んでいただきたい。

また、有給インターンシップと普通のアルバイトとの違いは研修やセミナーを実施するところだが、実際に仕事に入ると内容は近いと思う。研修やセミナーをしっかりと行い、その部分を前面に出して事業のPR等を行ってほしい。

○龍田委員

有給インターンシップは市内大学生をターゲットとしているが、人手不足の中で大学中退者や高校卒業の方、何かしらの理由で無職の方が増えている。大学生という枠組みの若者ではなく、市内の若者という大きな枠組みで様々なチャンスを与えてほしい。そのような政策だと、より効果的なものになるのではないか。

○澤井座長

インターンシップというと大学生のイメージがあるが、大学生に限らず事業実施できるのであれば、もっと幅広く事業を展開できると考える。

○中川座長代理

観光振興計画を策定し、「観光商品及び特産品開発に向けた検討会議」を行い、6次産業化に向けて検討していくということだが、今まで個人のグループ等でも商品を作っていたが、今回新たに専門家を集め、市として力を入れて組織的に特産品を作ることを意味しているのか。

○事務局

外部の目線を取り入れて行うことが重要だと思っており、人選についても事業者と協議し、組織・協議会を作り、その中で江別にふさわしいものがあるかというのも含めて検討したい。実際にはこれから考える段階である。

○中川座長代理

これから江別にあるものを見ていき、その中で商品化して販売・宣伝していくということか。

○事務局

去年地域資源調査を行い、現在、事業者と江別にどういうものがあるかを協議しており、その結果を踏まえてどう地域資源を活用することができるか検討したい。

○澤井座長

この事業は3年間のプロジェクトで来年度においても継続して実施する。今年度は観光振興計画をまとめ、来年度は実際に品物の開発・宣伝等を行う。マーケティング戦略やブランディング戦略がプロジェクトを成功させる鍵になるため、専門家・企業の経験や知識、マーケティング戦略やブランディング戦略を楽しみにしている。

○中川座長代理

今までは商品化を行っても個人のグループ等では数が少なく、市内での販売のみになってしまい、市外での販売までには至らなかったという欠点があったと思う。市や組織が関わり、ある程度、数を確保しなければブランドとして売れないのではないかと。それも含めて考えていかなければならない。

【地方創生推進交付金及び地方創生拠点整備交付金採択状況について、事務局説明】（地方創生拠点整備交付金について）

○澤井座長

ハードウェアを整備するということだが、整備するだけでなく、いかに活用するかが重要であると考えている。

議事（２）

【平成２８年度江別市まち・ひと・しごと創生総合戦略事業（地方創生加速化交付金及び推進交付金）実績報告について、事務局説明】（「さっぽろ圏」若者定着促進広域連携事業について）

○阿部委員

「さっぽろ圏」若者定着促進広域連携事業においてハローワークと一緒にセミナーを実施しているが、今年度は５月に行い、次回は１１月に予定しているので、PRを行い参加人数を増やし就職につなげていきたい。また、就職相談窓口（週１回）はどこで実施しているのか。ぽこあぽこでよろしいか。

○事務局

ぽこあぽこで行っている就職相談会である。

○龍田委員

働きたい女性のための就職支援事業を活用し、当社は７月より女性１名が就職している。非常に優秀な人材を育てていただきマッチングも適切である。子育てしながら意欲を持って働きたいという女性の橋渡しをうまく行っている。

女性と企業のニーズのミスマッチをどう解消していくかが問題だが、今後も事業を継続していただきたい。

【平成２８年度江別市まち・ひと・しごと創生総合戦略事業（地方創生加速化交付金及び推進交付金）実績報告について、事務局説明】（学生地域定着自治体連携プロジェクトについて）

【質疑なし】

議事（３）

【江別版「生涯活躍のまち」構想の策定について、事務局説明】

○龍田委員

この事業そのものが高等養護学校の誘致が前提での事業だが、この是非が決まるまでは遊休地のままにしておくということか。例えばこの事業が５年・１０年と長引いた場合も遊休地としておくのか。

○事務局

この構想のコンセプトは、障がい者・高齢者・地域住民・大学生と多様な主体が交流する、共生のまちというのが重要になっている。高等養護学校誘致はこの構想の重要な要素になるので、お話にあったように、高等養護学校誘致があって、その後事業がスタートするため、誘致が決まる前に整備を始めるという形にはならないと考えている。道教委の配置計画は毎年示される。去年から道教委は、数年後道央圏では志願者数の増加による対応が必要となるという見通しを示しているが、江別市に配置することは示されていない。したがって、数年の間に道教委が決めなければならないという検討の段階なので、その間は結果を待つということになる。

○龍田委員

高等養護学校誘致以外の選択肢を持っているのかを聞きたい。様々なプランニングで障がい者や施設団体の交流の場という目的は非常に良いが、高等養護学校誘致を前提にするのではなく、高等養護学校に代わる施設としてその他の方法も検討していき、高等養護学校誘致がなくなった場合、また初めから議論するのではなく、次の案を検討し、迅速に遊休地を活用していくのかを確認したい。

○事務局

現段階では強く市において高等養護学校誘致を要請しているので、基本的には高等養護学校を誘致しないと進まない構想になっている。

○龍田委員

了。

○吉川委員

道教委が高等養護学校の配置計画を発表するのは毎年1回のみなのか。

○事務局

今年度は6月に配置計画案が公表され、最終的には9月にその年度の案が確定する。6月に案を公表して9月に確定するのは定例的なスケジュールとなっている。

○吉川委員

それでは今回配置計画に記載がなかったということは、来年まで事業は一切動かないということか。

○事務局

その通りである。今後3年間、平成30年と31年、32年の見通しも含めて先月公表されている。配置計画案を公表して議会の議論を経て9月に確定するが、基本的に配

置計画案は変わらないと考えている。

6 その他

【次回以降の有識者会議の日程について】（事務局）

7 閉会